

学習内容と到達目標

👉 お世話になった人にお礼を言い、近い将来の再会を約束して別れる。

指導のポイント

Vol.2 からは一気に難しくなるので、学生には Vol.1 の時以上にきちんと予習をさせること。そうしないと、未消化のままスケジュールだけが淡々と進んでしまう。

1. INTRODUCTION

1年間の留学を終えて帰国するキムさんとリーさんを山川さんが空港まで見送りに来ているという状況を説明し、3人が何を話しているかを想像させる。その上で、3人1組でロールプレイをさせてみる（この段階ではうまくできずにボロボロになってしまってもかまわない）。

2. LISTENING

①では [1.INTRODUCTION] の絵を見ながら会話を聞かせ、イラストの誤りを指摘させる。間違いを全部見つけられたら、②でスクリプトを読ませ、①の答えを確認。その後、この課で学習する文型・文法（太字で表記）やその他の重要表現（例、「ねえ、覚えてる?」「そう言えば」「じゃ、そろそろ行くね」などの切出しの表現）を取り上げて練習する（文法導入を授業中に行う場合は、ここでは①の答えの確認程度で済ませ、細かな練習は [3.FOCUS] の学習を終えた後で行うようにする）。

例1. A: **ねえ、覚えてる?** _____時、〇〇さんに_____もらったね。
B: **もちろん、覚えてるよ。**

例2. A: **そう言えば、** _____時、〇〇さんに_____もらったね。
B: **そんなこともあったね。**

3. FOCUS

①と②は単純な活用の練習。③で「～時」と「～た時」の違い（その行為が完了する前か後かの違い）を理解させ、④で確認をする。

前件が動詞文の場合、この教科書では「～時」と「～たら」を以下のように使い分けしている。(⑤)

日本に**来る時**、友だちに電話**しました**。 = 「～前に～ました」

日本に**来た時**、友だちに電話**しました**。 = 「～後で～ました」

日本に**行く時**、友だちに電話**します**。 = 「～前に～ます」

日本に**行ったら**、友だちに電話**します**。 = 「～後で～ます」

テモラウ文では行為者は常に「に」で示されるが、テアゲル文では受益者を示す助詞は動詞によって変わること(⑥、⑦)

例. 私は弟**に**宿題を手伝ってあげます。(→「の」)

私は友だち**に**駅まで送ってあげます。(→「を」)

4. LISTENING

①では話の内容に注意を向けさせ、②で言語形式に注意を向けさせる（聞き手が話す時に「～んですか」「～んですね」を多用していることに気づかせる）。

5. SPEAKING

グループワークにするのもよい。各グループで市内観光の計画を立てさせ、それを発表させる。

6. ROLE PLAY

①では [1.INTRODUCTION] のモデル会話を例に学習者にロールプレイをさせる。その際、モデル会話のとおりには話させるのではなく（会話が長過ぎて不可能）、以下のようなフレームを示し、各パートでどんな表現を重点的に使うかだけを学習者に意識させ、後は自由に話させる。

I 1年間のお礼を述べる

II この1年間にお世話になった思い出を話す

切出し：「ねえ、覚えてる？」「そう言えば」

表現：「～時、～てもらったね」「～時、～もらって、助かった」

III 近い将来友だちが自分の国へ遊びに来たら、何をするかを話す

切出し：「ねえ、〇〇さん。よかったら、～」

表現：「～たら、～あげる」

IV 別れの挨拶をする

切出し：「じゃ、そろそろ行くね」

②は（指示どおり）リーさんになったつもりで話させるのもいいし、自分自身のことについて話させるのもよい。

7. COMPOSITION

[6.PAIR WORK] の②で自分自身について話した場合は、それをそのまま文章としてまとめさせるようにする。